

○徳島県砂防ボランティア協会長賞

早めのひなん行動を

鳴門西小学校 五年 小西 伶奈

台風のシーズンを迎え、土砂災害の危険性が高まる季節になりました。日本は国土の約四分の三が山地で平地がせまいため、土砂災害が起こりやすい山間部にもたくさん的人が住んでいます。また、日本は世界の国々の中でも雨や雪が多く急流の川も多いため、土砂災害の起こりやすい条件がそろっています。四季の移ろいが美しく、自然豊かな日本は、世界有数の土砂災害の多い国でもあります。令和六年度には、全国各地で一四三三件の土砂災害が発生しました。

私が住んでいる鳴門市では、あまり高い山がないため土砂災害を気にすることはありませんでしたが、あまりにも土砂災害の件数が多いため、自宅の近くで土砂災害が起こらないか心配になりました。すると、自宅からすぐ近くの山が土砂災害の危険区域に指定されているという話を父から聞かされました。ハザードマップで土砂災害の危険区域を調べてみると本当に自宅の近くの山が土砂災害の危険区域になっていて、徳島県全域、全国でもたくさんの危険か所がありました。私のように、自分自身の自宅近くが土砂災害の危険区域になっていることを知らない人がたくさんいるかもしれません。土砂災害の危険区域がある山の近くに行ってみると、急けいしや地やほうかい危険区域と書かれている標識がありました。その山にある神社は、災害時のひなん場所にも指定されています。以前、ひなん訓練をした時に、近くの山に登ってみました。ひなん場所になっているから、安全な場所だと思っていたが、山の場所によっては、しゃ面がきつくて危険な箇所もありました。

テレビで、土砂災害の痛ましいニュース見ることもあります。台風が来なくともたくさんの雨が降ったり強い風が吹くこともあります。土砂災害のニュースで印象に残っているのは、今までに経験がないほどのたくさんの雨が降った、今までここに住んでいて土砂災害が起ったことは一度もなかったというコメントです。実際に被害にあった地域の方のコメントを聞いて、今まで土砂災害がなかったからといって、油断をすることは大変危険だとわかりました。また、急にたくさんの雨が降ってきて、ひなんできなかったとのコメントも聞きます。直ぐにひなんができるように防災リュックを準備しておくことや、ひなん場所やひなん経路を決めておくことも大切です。しかし、いくら十分な準備をしておいてもひなんをしなかったり、ひなんがおくれてひなんが出来なかったのでは意味がありません。ひなんがおくれないようにするために、テレビのニュースなどで天気予報を確認したり、気象庁や自治体の指示にした

がって早めに行動することが重要です。ひなんをしなければいけないと言う気持ちで、これから台風シーズンに備えたいです。